

# 留学生活で感じた事のこと

## 日本人のやさしい気持ち

今の中中国において、たいていは日本に対して「日本は礼儀の正しい国である」という印象が深いのです。私もそう思っています。四年も前のことですが、中国は、対外開放の政策を取つたばかりなので、とくに年配の多くは、女性一人で日本という資本主義国へ留学に行くのをたいへん心配していました。私の母もその一人でした。

私自身も、昔仕事場で日本人と知り合ったことになって、日本人から日本のことを見ました。しかし、初めて自費留学生として広島に行くのも、何となく不安でした。

けれども、初めて広島に出会つたことや、道を親切に教えてくださったことや、ホテルまで見送つていただいたことや、部屋を探してくださったことや、特に奨学金をいただいたことなどで不安を取り除かれ、広島大学で安心して勉強ができます。

こうしたことを通じて、日本人の、留学生に対するやさしい気持ちが伝わってきました。それは日本人の心です。私の眼からみれば、日本人はやさしいのです。特に年配の方が、中国の留学生に対して親切だと思います。

## 桜から見た集団性

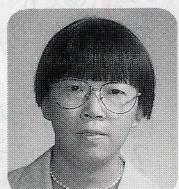
広島に一年間滞在してたくさんの日本人と知り合いになつて、非常に楽しいです。特に興味深いのは、桜の花が満開の時期の花見のことです。

四月には、南から北まで、桜の花が咲きます。桜の木の下で音楽を流しながら、踊つたり唄つたりする日本人がたくさんいることにびっくりしました。

なぜ、桜の花が、たくさんの日本人の心を打つのでしょうか。もちろん、昔から桜が日本を代表する花であるからと考えます。

その理由を申し上げますと、桜の花は一緒に咲き、一緒に散り、それは日本民族の團結と集団性を表すのではないでしょうか。その精神こそ、日本を世界一の経済大国にさせたのではないでしょうか。またその團結性と集団性は、日本人の優れている品性がよく表れています。例えば、広島大学の学生は、他人の前では先生の悪口を言わない習慣があります。もちろん、学生たちは先生に対して自分なりの見方を持っています。けれども先生を尊敬しています。日本は、團結と集団性のおかげで成功した例はたくさんあります。

元留学生 張萍 Qi Ping  
秋萍 Qi Ping

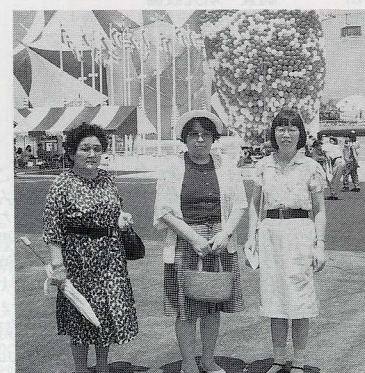


## 広大教育のすばらしさ

広島大学で一番印象的なのは、研究室の特研でした。特研が始まる前にコーヒーなどを用意してくれました。特研はいつもコーヒーを飲みながら、軽い雰囲気の中で始まります。

しかし、指導教官も学生も真面目です。指導教官は、いつも学生が発表したものを見つけてくれました。特研はいつもコーヒーを飲みながら、軽い雰囲気の中で始まります。

一九八六年から二年ほど大学で比較教育を担当しました。一九八八年十二月から一九八九年十二月まで、広島大学教育学部で自費留学生として広島に滞在しました。現在、上海市高等教育研究所に勤め、助理研究員として比較教育についての研究を続けています。



▲1989年 日本の友だちと一緒に、広島「海と島の博覧会」で撮った写真

私は一九五八年に中国の上海で生まれました。一九七七年プロダクション後、初めての全国統一試験で大学に入りました。四年後、上海外国语大学日本語学部を卒業しました。

一九八六年から二年ほど大学で比較教育を担当しました。一九八八年十二月から一九八九年十二月まで、広島大学教育学部で自費留学生として広島に滞在しました。現在、上海市高等教育研究所に勤め、助理研究員として比較教育についての研究を続けています。

発表します。学生はその表をゆっくり見て選択し、先生を選ぶことからその先生の授業を評価しているのではないでしょか。

また、日本の大学生が、卒業する一年前に就職先の試験を受け、卒業する前に自分の進路が分かっていることは、非常に優れているやり方です。もちろん日本の大学教育において不合理なものがないわけではないでしょ。例えば、日本の大学入学試験は厳しすぎると思います。その試験制度は、試験地獄制度だと言われているわけでしょ。

それは日本民族が団結しすぎて、他民族への心配りが足りなかつたのでしょ。